

科目名称：	日本語表現Ⅰ（美術学科）	
担当者名：	太田 淳子	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
グローバル時代を生き抜くために、古典の世界や伝統的な和歌に親しみ、日本人の考え方や感じ方、日本文化に対する関心を深める。小論文を書くことで論理的思考力を育て、日本語力を高める。俳句の実作や鑑賞を通して、日本語センスや表現力、共感力を豊かにする。		
授業の達成目標・到達目標		
①『伊勢物語』を読解することにより、日本人の考え方や感じ方、日本文化に対する関心が深まっている。 ②語彙力テストや小論文の作成により、語彙が増え、論理的思考力が高まっている。 ③俳句の実作や鑑賞を通して、日本語センスが磨かれ、表現力や共感力が豊かになっている。		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)		60	30	10	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス 語彙力テスト(全10回)の説明 『伊勢物語』の作品に関する説明(演習)	『伊勢物語』の作品の要点のまとめ 語彙力テスト①の練習	40分
第2回 語彙力テスト① 古典の世界①『伊勢物語』「初冠」の読解(演習)	『伊勢物語』「初冠」要点のまとめ 語彙力テスト②の練習	40分
第3回 語彙力テスト② 古典の世界②『伊勢物語』「鬼一口」の読解(演習)	『伊勢物語』「鬼一口」要点のまとめ 語彙力テスト③の練習	40分
第4回 語彙力テスト③ 古典の世界③『伊勢物語』「東下り」の読解(演習)	『伊勢物語』「東下り」要点のまとめ 語彙力テスト④の練習	40分
第5回 語彙力テスト④ 古典の世界④『伊勢物語』「東下り」の読解(演習)	『伊勢物語』「東下り」要点のまとめ 語彙力テスト⑤の練習	40分
第6回 語彙力テスト⑤ 古典の世界⑤『伊勢物語』「筒井筒」の読解(演習)	『伊勢物語』「筒井筒」要点のまとめ 語彙力テスト⑥の練習	40分
第7回 語彙力テスト⑥ 古典の世界⑥『伊勢物語』「さらぬ 別れ」「つひにゆく道」の読解(演習)	『伊勢物語』「さらぬ解れ」「つひにゆく 道」要点のまとめ 色紙制作の準備	30分
第8回 古典の世界⑦色紙の制作～『伊勢物語』の一場面を表 現	色紙制作の続き	30分
第9回 古典の世界⑧色紙の制作～『伊勢物語』の一場面を表 現	「伊勢物語の魅力」に関する小論文の構想を 練る 語彙力テスト⑦の練習	40分
第10回 語彙力テスト⑦ 色紙の合評(グループワーク) 「伊勢物語の魅力」に関する小論文の作成	「伊勢物語の魅力」に関する考えを深め る 語彙力テスト⑧の練習	40分
第11回 語彙力テスト⑧ 日本語トレーニング①小論文の基礎知識と技術・実践	「言語・文化・日本語」に関する考えを 深める 語彙力テスト⑨の練習	40分
第12回 語彙力テスト⑨ 日本語トレーニング②小論文の合評(グループワーク)・発表	「言語・文化・日本語」に関する考えを 深める 語彙力テスト⑩の練習	40分
第13回 語彙力テスト⑩ 俳句で日本語センス①俳句の基礎知識と技術・実作	「俳句の基礎知識と技術」要点のまとめ	30分
第14回 俳句で日本語センス②俳句の合評(グループワーク)	確認テストの準備	40分
第15回 確認テスト(小テスト)	「日本語表現Ⅰ」の復習	30分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト60% 授業内提出課題30% 授業への積極的な関与10% として評価する。

課題に対してのフィードバック

- 1 小テストは確認して返却する
- 2 授業内課題は評価してフィードバックする

教科書・参考書

毎回プリントを配付するので、各自でファイルを用意して整理する。また、参考書については、必要に応じて紹介する。